指示を正しく理解して行動する子

― 作業学習の指導を通して ―

安　住　順　一

1. 対象児のプロフィール

生徒名　C・M（女）　昭和44年10月18日生　高等部２年生　（17歳）

市立T中学校特殊学級より本校高等部へ入学

(1) 一般的特性

パターンとして一度体得したことはよく覚えており、きちんと果たす。その反面、教師の指示を正しく理解しないでまちがった行動をしたり、友達の言うことを受け入れず衝突したりすることが多い。明朗で、知らない人とでもすぐ打ち解け、話すことを好むが、的はずれの応答をすることも多い。

(2) 諸検査による実態

ＩＱ　42（ＷＩＳＣ－Ｒ）　昭和61年５月実施

言語性	知　識	類　似	算　数	単　語	理　解	数　唱	計	ＶＩＱ
評価点	1		1	1	1	6	10	45
動作性	絵画完成	絵画配列	積木模様	組み合わせ	符　号	迷　路	計	ＰＩＱ
評価点	3	8	3	3	7		24	58
							計	ＦＩＱ
							34	42

※　ＶＩＱ…言語性ＩＱ　ＰＩＱ…動作性ＩＱ　ＦＩＱ…全検査ＩＱ

ＳＱ　80（Ｓ－Ｍ社会能力テスト）　昭和160年11月実施

(3) テーマに関する実態例（昭和161年４月）

① 印刷学習時に教師からの指示「インテルを返してください。」に対し、「ハイ。」と返事をしたが、所定以外の場所にインテルを返してしまった。

② 印刷学習時に教師からの指示「組みのまちがっている活字の手直しをしてください。」に対して「私の仕事ではありません。」と答える。（活字を組んだ人の仕事と思いこんでいた。）

③ 印刷学習時に教師からの指示「一番右のひきだしから鍵をとってください。」に対し、「ハイ。」と返事をしたが、どこのひきだしを開けたらいいかわからずうろうろしていた。

④ 数学の学習時に、早くプリントの問題を終えたので、「まちがいがあるからもう一度計算をして確かめをしなさい。」という教師の指示に対し、「ハイ。」と返事をするが、一向に確かめをしようとしなかった。

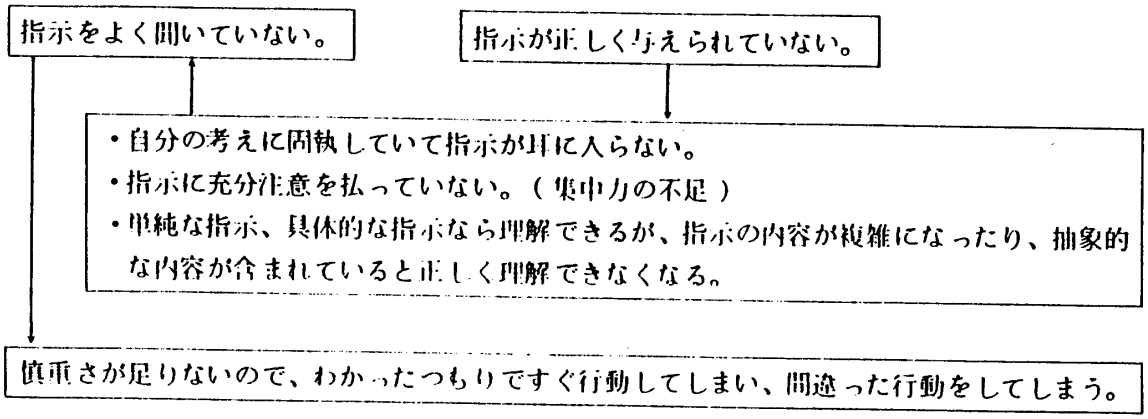
⑤ 朝自習時に、クラスのＡ・Ｋに「プリントをするようにＣ・Ｍさんにも伝えておくように。」と指示をし、Ａ・ＫがＣ・Ｍに指示どおりに伝えると、「私は聞いていないからしません。」と反論し、口げんかになった。

2. 個人目標の設定と研究方法

(1) 個人目標の設定

1で示した実態に基づき、指示を正しく理解して行動する場面が多くなれば、日常生活が今以上に円滑に営まれ、職業人としての技能の向上もはかれると考え、「指示を正しく理解して行動する子」ということを個人目標とした。

(2) 指示を正しく理解しないで行動してしまう原因



(3) 研究方法

① 週9時間ある作業学習（印刷）の時間に、作業上の指示を正しく理解して行動できるようにさせる。

② 指示の与え方を工夫し、どのような指示が適切であるか考察する。

③ 段階的に指示を与え、徐々に高度な指示でも理解できるようにさせる。

④ 具体的には次のような方法が考えられる。

㋐ 指示された内容をくり返し言わせてから行動に移させる。（単純な復唱→複雑な復唱）

㋑ 簡単な（抽象的な）指示を出し、それは具体的にはどういうことかを質問し、考えさせてから行動させる。

㋒ 複雑な行動は、教師が手をそえてさせる→示範を見せる→指示だけで行動させる、というステップをふむ。

㋓ 最後まで指示を聞かないと間違った行動をしてしまうような指示を与え、指示を最後まで集中して聞こうとする態度を身につけさせる。

3. 授業の構成と指導の手だて

(1) 印刷学習について

① 人員構成

1年3名、2年1名（C・M）、3年2名の計6名（11月より2年1名が陶芸コースより編入）

② 職業コースは、印刷、木工、陶芸、被服、農園の5コースがある。C・Mは昨年は被服コースに属しており、印刷コースには今年度から入った。（昨年度校内職業実習「年賀状印刷」で印刷作業＜活字の拾い・返し、解版、製品の包装＞を10日間経験した。）

③ 印刷の作業工程

受注 → 拾い → 組版 → 印刷 → 包装 → 納品
↳ 返し ← 解版 ↲ ↘ 製本 ↗

④ 作業項目

・印刷物の注文を受けに行く ・活字の拾いをする ・活字を組む ・印刷機を使用して印刷をする
・校正をする ・解版をする ・コミ、インテルの分類をする ・活字の返しをする ・製品の包装をする
・文集の製本をする ・請求書、領収書に必要事項を書く ・受注簿、金銭出納簿をつける
・製品を納品する

(2) 印刷コースの年間学習計画とC・Mの主な活動について

月	年間学習計画 ( )は時間数	C・Mの主な活動
4	印刷の工程を覚える(11)	・活字の拾い、返し ・解版 ・コミ、インテルの分類
5	校内職業実習反省文集作り(26)	・印刷 ・解版 ・製本
6	暑中見舞いの印刷(25)	・印刷 ・実務(受注－受注簿の記入－包装－納品)
7		
9	運動会のプログラム・表彰状の印刷(15)	・コミ、インテルの分類
10	依頼分、封筒の印刷(17)	・受注、納品 ・印刷 ・コミ、インテルの分類
11	学習発表会のプログラム・表彰状の印刷(12)	・コミ、インテルの分類 ・印刷
12	年賀状の印刷(69) (校内職業実習の48時間を含む)	・実務(受注－受注簿・金銭出納簿の記入－領収書の記入－包装－納品－集金
1	名刺・メモ帳作り(30)	・印刷 ・解版 ・実務
2	文集「くも」の印刷(30)	・組版 ・製本
3	挨拶状の印刷(12)	・印刷 ・実務

4. 指導実践例

※ T…教師 C…C・M

(1) 作業中の指示に対するC・Mの行動の変化

4月・5月	○T「1/4のインテルを2枚持って来てください。」 C「ハイ」すぐにとりに行くが1のインテルをとってくる。 ○T「箱の整理をしてください。」 C「ハイ」 どの箱を整理していいのかわからずうろうろしていた。	○T「○○さんのハガキを整理してください。」 C「ハイ」すぐにとりかかるがまったく違う人のハガキを整理していた。 ○T「解版した活字は大きさによって分けて箱に入れましょう。」 C「ハイ」 一つの箱に全部活字を入れていた。

9月・10月	○T「このインテルを1㎜切ってください。」 C「1㎜とはどれくらいですか？」 Tが説明し、正確に切ることができた。 ○T「1/8のインテルをこの長さに合わせて切ってください。」C「全部ですか？」 T「2枚です。」 正確に切ることができた。	○T「ブラッシングしてください。」 C「何をですか？」 Tが何をブラッシングするのか説明し、正確にできた。 ○たくさん文字の書いてある原稿を見せながら T「『職業の印刷』を4号で拾ってください。」 C「しょくぎょうのいんさつ」と反復しながら仕事にとりかかり、正確に拾えた。

＜考　察＞

4月・5月は、指示をまったく無視した行動や、指示を自分なりに解釈した間違った行動が多かった。そこで、教師が指示をだした後で「それは（具体的には）どういうことですか？」と質問し、考えさせる指導をした。その結果、9月・10月には、少しでもわからない点があると自分から教師に質問し、正しい行動ができる場面が多くなってきた。このことからも、C・Mに、早合点しないで慎重に行動しようとする態度が徐々に身についてきていることがわかる。

また、C・Mが何か作業をしている途中に指示をだした場合、「ハイ」という返事はするが、指示内容がまったく頭に入ってないことが多かった。指示をだす時は①作業をやめさせ、こちらを注視させる。②力強い響きのある音質で注意をひきつける。③文章の長さ、要点ごとの句切り、話す速度、重要な単語の強調に注意する。という点が大切である。

(2) 印刷機の使用時におけるC・Mの行動の変化

(ア) 印刷機の操作手順を覚える。

※　印刷機の操作手順

電源スイッチを入れる→ペダルを足で踏む→ブレーキをはずす→〔印刷用紙をセットする→ペダルから足をはずす→（印刷）→ペダルを踏む〕（〔 〕のくり返し）→ブレーキを入れる→電源を切る

かなり複雑な操作なので、初めて印刷機を使用するC・Mには一度の指示では覚えられないと考え、次のようなステップで指導した。

① 教師が手をそえて一緒に機械を操作する。

② 操作手順をくり返し言ってから機械を操作する。

③ 操作手順を覚えて、ひとりで機械を操作する。

月	ステップ	回数	指導内容	結果
5〜6	②	1〜3	操作する前に手順を言わせる。	操作の手順をまちがえた。
	①	4〜6	教師が手をそえて一緒に声を出して手順を言いながら操作させる。	正確に操作できた。
	②	7〜8	操作する前に手順を言わせる。 操作する時も操作内容を声をだして言わせる。	正確に操作できた。
		9〜10	操作する前に手順を言わせる。	正確に操作できた。
	③	11〜13	T「印刷をしてください。」	正確に操作できた。
9	③	14〜17	T「印刷をしてください。」	正確に操作できた。

(イ) 封筒を印刷機に両手を使って正確にセットする。

※ 9月から始めた封筒の印刷であるが、片手で雑にセットするため、印刷がまがってしまうことが多かった。そこで両手でセットできるように次のステップで指導した。

① 教師が手をそえて一緒に封筒をセットする。

② 教師の示範を見て、封筒をセットする。

③ 教師の指示を聞いて、封筒をセットする。

月	ステップ	回数	指導内容	結果
9	③	1～2	T「両手を使って封筒を入れましょう。」	指示の後では両手を使っているが、すぐ片手になる。
	②	3～4	示範を見せる。	指示の後では両定を使っているが、すぐ片手になる。
	①	5～7	一緒に封筒をセットする。	正確にできた。
	③	8～9	T「両手を使って封筒を入れましょう。」	正確にできた。
		10～12	T「封筒の印刷をしましょう。」	正確にできた。

＜考　察＞

複雑な一連の行動は、指示を聞いただけでは理解できないので、実際に教師が手をそえて補助する指導が必要である。高度な技能を伴う行動は、その内容を反復してから行動に移るよりも教師と一緒に正しい行動を数回行って体で覚えるほうが有効であった。一度覚えた技能はよく定着しているので、技能を覚えさせる初期の段階でまちがいを少なくさせるスモールステップの指導が必要である。

(3) 受注・納品時におけるC・Mの行動の変化

※ 7月の「暑中見舞いの印刷」の学習時にC・Mは、受注・納品を担当したが、その時あいまいな伝達が多く、教師の指示が半分しか伝わらなかったり、まちがって伝えられることがあった。そこで、9月・10月の「封筒の印刷」では、伝達が正しくできるように指導していった。指導にあたって留意した点は次の2点である。

① 簡単な指示をだし、具体的にどうすればいいか考えさせてから行動させる。

② 伝言内容をくり返し言ってから行動する。（単純な反復→複雑な反復）

	受注		納品	
月/日	指導内容	結果	指導内容	結果
9/26	T「封筒をもらいに行きます。どう言いますか？」 C「封筒をもらいに来ました。」 （3回くり返す。）	正確に言えた。	T「封筒を持って行きます。どう言ったらいいですか？」 C「できました。」 T「何が？」 C「封筒ができました。」 T「ええ？」 C「封筒の印刷ができました。」	「印刷ができました。」と伝える。
9/30	T「封筒をもらいます。どう言いますか？」 C「封筒の印刷はありませんか。」 T「印刷する封筒はありませんか。」 C「印刷する封筒はありませんか。」	「封筒の印刷はありませんか？」	T「封筒を持って行きます。どう言ったらいいですか？」 C「印刷ができました。」 T「何の？」 C「封筒の印刷ができました。」	正確に言えた。
10/8	T「封筒をもらいます。どう言いますか？」 C「印刷をするので封筒をください。」	正確に言えた。	T「封筒を持って行きます。どう言いますか？」 C「封筒の印刷ができました。」	正確に言えた。

＜考　察＞

比較的短い指示であればすぐ覚えられるが、長く複雑な指示になると何回か反復練習しないと覚えられなかった。具体的伝達内容を考えさせてから行動させる方法は有効であるが、本人がまちがった内容を覚えた場合は、それに固執してしまい、正しい行動ができなくなる。そこで、教師の意図する方向にうまく誘導するように考えさせる質問をすることが大切である。

5. 考察と反省

(1) 考　察

4月から10月までの実践をふり返り、指示のだし方について留意しなければいけない点について次のようなことが考えられる。

① 教師のほうを注目させてから、話す速度、重要な単語の強調等に注意して指示をだす。（「ハイ」という返事を聞いて、指示が伝わったと判断してはいけない。）

② 指示をただ単に復唱させてから行動させるより、具体的には何をすればよいかということを考えさせてから行動させるほうがよい。

③ 高度な技能を伴う行動は、教師と一緒に正しい行動をするというステップが必ず必要である。その後は、示範を見せなくても指示だけで正しく行動できる場合が多い。

④ 行動を覚えさせる初期の段階では、まちがった行動を覚えこませないようにするためのスモールステップの指示が必要である。

⑤ 指示された行動が正しくなされたかどうかを必ずチェックしなければならない。（指導者以外の人に協力してもらい、見届けてもらう場面も必要になってくる。）

(2) 成果と反省

4月当初にくらべ、指示を正しく理解して、慎重に行動しようとする態度が育ってきている。（わからないことは納得するまで質問したり、やる内容を自分で反復してから行動しだした。）しかし、複雑な指示、意味のよくわからない単語の含まれた指示になるとまだよくわからないままに行動することがある。また、教師が指示する言葉を充分吟味しないでだすこともあり、混乱をまねくことがあった。指示、発問において言葉を充分吟味することが必要なことがわかった。

6. 今後の課題

10月までの実践が終わった時点で、C・Mの言語能力をもっと詳細に分析する必要を感じ、ＩＴＰＡテストを実施した。そのテストの結果を参考にして新たに指導方針をたて、校内職業実習（年賀状印刷作業、11月27日～12月６日、48単位時間）で指導実践した。その記録は分科会発表資料に詳しく述べてある。「今後の課題」については分科会発表資料を参照されたい。